

2017年3月期 決算説明会 質疑応答

2017年5月10日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1：2017年度の営業利益予想では、2016年度に実施した3件の買収分の利益貢献額として、のれん等償却前営業利益30億円を見込んでいるが、その内訳は？買収に伴う一時的な費用は含まれているのか？

A1：買収後のPPA（Purchase Price Allocation：買収対象資産・負債の時価評価に基づく当社連結財務諸表への取得原価配分）が完了していないため、各事業の利益予想額を正確に算出することができない。現時点の暫定値として、止血デバイスの利益と他の事業の赤字の純額で約30億円の利益を見込んでいる。買収による一時的費用は殆ど含まれていない。

Q2：2016年度の営業利益の増減要因で、カテーテル・ニューロバスキュラー事業の販売投資増の金額が期初の見通しと比べて半分程度になった要因は？

A2：Misagoのリコールに伴う費用減と、販売が想定を上回り好調に推移したため、販促費を予定よりも使わずに済んだ事が主な要因である。

Q3：2017年度の営業利益予想の増減要因では、前年度と比べて、コストダウン等による粗利益改善効果が少なく、カテーテル・ニューロバスキュラー事業への販売投資増が多くなっている。やや控えめな前提の様にも思われるが、業績予想が上振れする可能性は？

A3：2017年度は、2016年度と異なり、次の3つの要因に伴う増益が見込めなくなる。第一に米国でのデバイスタックスの一時的な中断。第二に薬剤溶出型ステントで、他社にライセンス料を支払っていたNoboriから自社開発品のUltimasterへの販売切り替え。第三に、TCVSでの品質システム改善費用の減少。2017年度は、これらの要因を除いた地道なコストダウン活動による増益額を見込んでいる。

Q4：第4四半期の売上が好調であった要因は？

A4：心臓血管カンパニーで、アクセスを中心にTIS（カテーテル）事業の売上が伸びたことに加えて、ニューロバスキュラー事業も、中国をはじめ海外で好調に推移したことが主な要因である。また、買収した止血デバイス事業の売上也当初の想定を上回り、順調に推移した。

Q5：現行のUltimasterのデリバリー性能をより改善したUltimaster Tanseiの販売開始時期は？

A5：2018年度を予定している。

以上